

令和7年度 浜松市立三ヶ日西小学校 学校評価報告書

1 自己評価

自己評価結果、考察及び改善方策
別紙（学校便り）のとおり

2 学校関係者評価

2月20日(金)に開催した学校関係者評価委員会（学校運営協議会）において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。詳細は別紙（CS だより）のとおり

- ・今学んでいることが将来や自分の成長にどう繋がるのかを子供が実感し、自己調整しながら深く学べるような、目的意識を持たせる指導が重要である。
- ・学ぶことの意味・意義について、授業での意識付けが大切である。また、ICTを効果的に活用し、児童に寄り添った個別の支援を行う工夫が必要である。
- ・時間外勤務の減少など、職場環境の改善を評価しつつ、それが教育活動の「おろそかな対応」に繋がらないよう、効率化と質のバランスが必要である。
- ・教員の負担軽減と教育活動の充実を両立させるため、学校ボランティア等の外部人材を、授業や生活の各場面でもっと積極的に取り入れていけるとよい。
- ・「いじめ防止基本方針」に基づき、学校・地域・家庭で連携し、いじめのない学校にしていきたい。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

◇不易と流行のバランスの取れた教育活動

不易（過去からの大切にすべき教育）と流行（ICTをはじめ、新たに導入していく教育）のバランスを取りながら教育活動を進めていく。

◇教育活動の見える化推進

本校の教育活動を保護者に一層理解していただけるよう、見える化していく。そうすることで、学校と家庭の視点を揃え、それぞれができる教育の在り方を見出すことができる。

◇学びの目的意識とキャリア教育の推進

「なぜ学ぶのか」という意義を丁寧に伝え、今取り組んでいることが自身の成長や将来に繋がることを実感できる指導を行う。また、児童が自己調整しながら深く学ぶ姿勢を養い、物事を自分事として捉えて主体的に生きる力を育む。

◇コミュニティ・スクールを通じた地域連携の深化

学校ボランティアの活用を一層充実させ、教職員の働き方改革と教育活動の質的向上を両立させる。地域の方々の知見を授業や生活指導に積極的に取り入れ、社会と接点のある豊かな学びの環境を構築する。

◇基礎基本の定着に向けたICTの戦略的活用

ICT教材を効果的に用いて視覚的・個別最適なフィードバックを行う。授業内での意識付けとデジタルツールの利点を組み合わせ、基礎学力と学習意欲の向上を図る。

◇いじめ対策の継続・推進

「いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域の役割を明確にして周知するとともに、温かい人間関係を構築する生徒指導に努める。